ま え が き

本書は、昨年（2015 年）上梓した『芸術・スポーツ文化学研究』の第 2 弾になります。前巻でも説明しましたが、このシリーズは昨年度、新たに「芸術・スポーツ文化学科」が開設された北海道教育大学岩見沢校における研究基盤の確立をねらいとしたもので、文化としての芸術やスポーツを地域の人々と共有し、普及発展の仕方を探っていく本学の教員による研究論文集です。音楽やスポーツ、美術、さらにビジネス論など研究分野は多岐にわたっています。

本書は昨年度と同様に「文化資源研究領域」「指導研究領域」「地域文化研究領域」「複合文化研究領域」、そして「芸術・スポーツビジネス研究領域」の 5 領域から構成されています。掲載された論文では芸術やスポーツの指導に関する内容が若干多く見られましたが、本学には芸術やスポーツの実技に長けた教員が少なくなく、みずからの技能的財産を次代の学生、あるいは社会の後進の人々に伝承していくことに情熱を注ぐとともに、指導法に関する研究を継続的に進めている教員が多くいることが読み取れます。もちろんそのほかの分野においても、日頃の教育・研究の研鑽の跡が窺えるすぐれた論文が掲載されています。

芸術やスポーツに関する専門的研究、さらにそれらを地域社会に広める手法としてのビジネス論などを体系的に統合した理論の確立ができるかどうかについては十分な確信をもって答えることはできません。しかし、本書は一見多分野の研究論文の集積のようにみえますが、それぞれの内容を読み込んでいけば、専門とする分野が異なる読者であっても、多くの点で自分の研究分野への適用可能な興味深い内容を見つけることができます。このことは、他専攻、あるいは異なる研究分野の教員同士のコラボレーションの可能性を示唆しています。

一例をあげてみます。音楽を聴くこととスポーツの動きを見ることの間にはきわめて大きな共通点があります。音楽のメロディーもスポーツ（に限りませんが）の運動も時間経過があってはじめて成立する時間ゲシュタルトとしてわれわれに現象します。ベルクソンがいうように、これらを止めて（静止させて）とらえることはできません。空気の振動としての音や物体の位置移動としての運動

は物理現象であることから科学の対象となり得ますが、人間の体験としての音楽鑑賞や運動観察の内容は自然科学的に、つまり数値でもって表すことはできません。芸術やスポーツの研究における感性の意義が再認されることになるでしょう。これは今日の自然科学とはまったく次元の異なる領域に属しているため、独自の研究方法が求められます。したがって、ベルクソンが純粋持続と呼ぶ人間の時間意識の現象を研究するには直観によることになります。ここでは、芸をきわめた者のみが論じることのできる固有の世界が対象となります。運動と音楽のとらえ方という視点で共通点を浮き上がらせ、認識過程の深層構造を明らかにする研究が進められれば、芸術やスポーツを普及、指導する人材を育成する本学にとって、専攻を超えたきわめて興味深い文化資源となるはずです。

この例は非常に狭い範囲の研究内容にすぎませんが、たとえば芸術やスポーツ活動とビジネス論のコンビネーションによる研究のように非常に幅広い領域にわたって応用できるものも少なくないと思います。すでに本学は、北海道内の各地へ演奏旅行に出かけ、地域の人々にオーケストラの魅力を伝える活動や、美術制作展の開催、また子どもたちにスポーツや音楽、絵画の教室を開いたりするプログラムを展開しています。これらの活動にビジネスの手法を取り入れれば、効果的な広報による観客数、参加者数の増加のみならず、人々のニーズに即したコンテンツの精選、さらに活動の展開の仕方などあらゆる面で進展が期待されます。これらの活動は実践と同時に広範な研究領域でもあり、これからの芸術・スポーツ文化の伝播にとって不可欠の研究領域となるでしょう。

本書の刊行が、これまで異分野と考えられていた領域の研究交流を促進し、芸術・スポーツ文化学の創設に向かうきっかけとなることを期待します。

北海道教育大学岩見沢校　キャンパス長　佐藤　徹

芸術・スポーツ文化学研究２

目　次

まえがき …… 佐藤　徹… i

文化資源研究領域

身体感覚の観点による美的形式原理の理解
― 抽象絵画の普遍的心理構造の検討 ―　……新井　義史…3
はじめに　3
第１節　造形性と身体感覚　4
（１）脳における視覚認知のプロセス　4
（２）重力による身体感覚の基軸　5
（３）身体性が求める体制化（ゲシュタルト）　6
第２節　美的形式原理の心理　8
（１）美的形式原理とは　8
（２）上位形式としての統一・調和・バランス　9
（３）シンメトリー・コントラスト・リズム　11
おわりに　16

ウィルダネス教育
― 北海道の自然を生かした教育 ―　…… 濱谷　弘志…19
はじめに　19
第１節　ウィルダネス教育とは　20
（１）定義　20
（２）起源と歴史　20
（３）ウィルダネス教育の効果　22
（４）指導者養成　23
（５）Leave No Trace　24
第２節　日本でのウィルダネス教育　26
第３節　北海道におけるウィルダネス教育の可能性　27
（１）道北エリア　28

（2） 道東エリア　28
（3） 中央高地（大雪山、十勝連峰）　28
（4） 日高山脈　29
（5） 増毛・樺戸山地　29
（6） 道央エリア　29
（7） 道南エリア　29
おわりに　30

Sports Culture and JAPAN Vision for the 2020 Tokyo Olympics
…… Ted Durwood Jones, Hiroshi Hamatani…33
要約　33
Introduction　33
1. Implications of the Games of the XXXII Olympiad　34
2. MEXT JAPAN Vision Summary 2020　35
3. English Reform Plan for Globalization　35
4. Tourism, Language and the Olympics　38
（1） Japanese economy and tourism　38
（2） Language and challenges for the Olympics　38
5. Japan's bid for the 2020 Olympics and future direction　39
6. Influence on Outdoor Life students toward English language　39
（1） Background of students　39
（2） Senior student response　41
（3） Observations about the role of language and sports in Japan　42
7. JAPAN Vision 2020, sports and popular engagement　42
Conclusion　42

21 世紀における、管打楽器教育を通じた人間形成のパラダイム構築とその重要要素の解析 …… 渡部　謙一…45
はじめに　45
第１節　多様化社会と吹奏楽　45

（1） 多様性の本質　45
（2） 現代日本の吹奏楽の発達と現状　46
（3） 音楽教育の社会形成への影響と現代的意義　47
（4） 現代性の脆弱性を補う音楽訓練　49
第２節 「音」の本質、そして想像力と創造性　50
（1）「音」の真の姿とは　50
（2） 音楽の「音」の真の姿とは　51
（3） 想像力を育てる　52
（4）「共感覚」を「意識」する　55
（5） 感覚と脳生理の合致　55
おわりに　57
（1） 現代文明と問題提起　57
（2）「音楽」の価値再考、そして新たな人間形成パラダイム構築　58

指導研究領域

なぜ「造形遊び」は定着しないのか？ …… 阿部　宏行…65
はじめに　65
第１節　教科書題材の年間指導の実施調査結果から　66
（1） 年間指導計画の編成と実施　66
（2） 教科書題材と年間指導計画　67
（3） 教科書題材と造形遊び　68
第２節　図画工作の指導に関する教員の意識調査から　69
（1） 調査対象の教職歴の内訳　69
（2） 図画工作の指導に関する意識　69
第３節　造形遊びに対する教員の意識　74
（1） 造形遊びの意義　74
（2） 造形遊びの指導　74
（3） 造形遊びの評価　75

第４節　研究教科等と造形遊び　76
（１）研究教科等と造形遊びの意義　76
（２）研究教科等と造形遊びの指導　76
（３）研究教科等と造形遊びの評価　77
第５節　造形遊びの定着を停滞させるもの　78
（１）国の行政機関の文部科学省および国立教育政策研究所の課題　78
（２）都道府県および政令都市の教育行政機関の教育委員会の課題　79
（３）学習指導要領に沿った教科書の編成の課題　80
（４）各自治体の研修機関および任意の研究団体の課題　81
（５）各学校の校内研究および研修の課題　82
（６）教員を養成する大学の課題　82
（７）各地区・各学校独自の課題　83
おわりに　84

スポーツ指導における指導者の言葉がけが選手に与える影響
― 選手の意欲や自主性を引き出す指導とは ―
…… 安部　久貴・越山　賢一…86
はじめに　86
第１節　指導者の言葉がけが選手の意欲や自主性に影響を与える理論的背景　87
第２節　指導者からの言葉がけの影響力を規定する要因　89
（１）選手の発達段階　89
（２）指導者と選手の信頼関係　90
（３）指導上の留意点　91
第３節　指導者の言葉がけに影響を与える要因　91
（１）指導者が抱く各選手に対する期待　92
（２）期待が実際の指導者の言葉がけに与える影響　93
（３）指導上の留意点　94
おわりに　94

声の音楽による日本の音文化の特徴に関する学習方法の構築
…… 尾藤　弥生…97
はじめに　97
第１節　研究の背景と目的　97
第２節　日本の音文化について　98
（１）日本の音文化の全般的特徴　98
（２）日本の「声」の音楽を通して体験できる日本の音文化の特徴　100
第３節　先行研究のリサーチ　101
第４節　日本の声の音楽の特性を体感できる実践計画の提案　102
（１）実施概要と教材　102
（２）実践概要および研究対象者と研究方法　103
第５節　実践結果および考察　106
（１）学習１週間後の理解状況　106
（２）「鑑賞ワークシート１」の特徴紹介文の記述からの考察　107
（３）日本の声の音楽の特徴を活用して創作する効果についての考察　108
（４）鑑賞と創作活動を関わらせる効果についての結果と考察　110
（５）日本の音文化の理解度に関する結果と考察　112
おわりに　113

ピアノ専攻学生のためのピアノ演奏法の研究
―国際的に認められる演奏とはなにか―　……深井　尚子…116
はじめに　116
第１節　ピアノ演奏法の変遷　117
（１）19 世紀からの技術的訓練のための教則本　117
（２）20 世紀後半～近代までの演奏法の提示　118
第２節　芸術的に高度な演奏とは何か　119
（１）芸術的な演奏とはなにか　119
（２）技術以外に必要なものは何か　120
第３節　『シャンドールピアノ教本』　121
（１）『シャンドールピアノ教本』の特徴　121

（2）「速成ピアノ上達法」の講義における成果について　126
おわりに　128

CUPS の可能性を探る
— リズムで遊ぶプログラムの試みを通して —　……樋口　英子…132
はじめに　132
第1節　CUPS とは何か　133
（1） 基本リズム型　133
（2） 基本動作　133
第2節　CUPS を用いた「リズム学校」の実習記録　134
（1） 3回にわたる「リズム学校」開設の記録　134
（2）「あそびプロジェクト」における「リズム学校」開設の記録　138
（3） 学生の最終レポートから　140
（4） 受講者アンケートから　142
第3節　CUPS の持つ可能性を考える　143
（1） CUPS が広く親しまれる理由　143
（2） CUPS を用いて広がる可能性　144
おわりに　145

ブランデンブルク工科大学ピアノペダゴジーコースと北海道教育大学岩見沢キャンパス「ピアノ指導法」の比較研究
— 授業視察とインタビューから —　……松永　加也子…149
はじめに　149
第1節　ブランデンブルク工科大学概要　150
第2節　ブランデンブルク工科大学器楽教育学ピアノペダゴジーコースと北海道教育大学岩見沢キャンパス鍵盤楽器コースの履修科目比較　150
（1） ブランデンブルク工科大学の場合　150
（2） 岩見沢キャンパス鍵盤楽器コースの場合　152
第3節 「ピアノ教授法／方法論」の内容　153

（1） ブランデンブルク工科大学のシラバスより　153
（2） 岩見沢キャンパスの「ピアノ指導法」授業内容　156
第４節 「ピアノ教授法／方法論」授業の実際　157
（1） DM3 の授業観察について　157
（2） DM2 の授業観察について　158
（3） 北海道教育大学岩見沢キャンパスのピアノ指導法との比較において　159
第５節　グレムザー教授へのインタビュー内容　160
（1） 各国ピアノ指導に関わる質問内容　160
（2） ブランデンブルク工科大学　グレムザー教授へのインタビュー　161
（3） インタビューから見るドイツの状況　164
おわりに　164

地域文化研究領域

青少年の芸術文化活動とコミュニティ
― タイのプーンティーニー・ディーチャン・プロジェクト ―
……岩澤　孝子…171
はじめに　171
第１節 「いいね」ではじまるコミュニティ　172
（1） 問題の所在　172
（2） 新しいスキーム　173
（3） 参加団体　174
第２節　事例「ペッブリー・ディーチャン」　176
（1） 何も「ない」から「ある」地域へ　177
（2） クリエイティブ・スペースとイベント　178
（3） 実践における青少年の役割　180
（4） 伝統知の掘り起こしとコミュニティの再評価　182
第３節　プーンティーニー・ディーチャンの組織　184
（1） 組織と運営　184

（2） ネットワーク構築　*185*
おわりに　*186*

地下公共空間における現代アート拠点創出と人材育成の取り組み
― 札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館の事例から ―
……三橋　純予…*188*
はじめに　*188*
第 1 節　札幌市の芸術文化政策　*189*
（1） 創造都市さっぽろ　*189*
（2） 札幌市文化芸術基本計画と新たな見直し計画　*189*
第 2 節　500m 美術館の概要　*190*
（1） 設置の経緯と目的　*190*
（2） 基本方針と期待する効果　*191*
（3） 最長の展示空間　*192*
（4） グッドデザイン賞　*194*
（5） 札幌国際芸術祭（SIAF）2014 との関係　*194*
第 3 節　500m 美術館のユニークな挑戦　*195*
（1） 展示の展開方法　*195*
（2） 500m 美術館賞　*195*
（3） アートマネジメントチーム「500 メーターズ」　*195*
第 4 節　来場者調査：成果と課題　*198*
（1） 来場者調査　*198*
（2） アンケート調査　*198*
（3） 調査結果の分析①　*199*
（4） 調査結果の分析②　*201*
第 5 節　今後の展望：インタビュー調査から　*201*
（1） 札幌市の現況　*201*
（2） 調査内容：アートマネジメント人材育成について　*202*
おわりに　*203*

地域に根ざした音楽教育のあり方
— シベリウス音楽院がフィンランドで担うピアノ教育の役割 —
…… 水田　香…*208*

はじめに　*208*

第１節　フィンランドにおけるピアノ教育の環境　*209*

（１）ピアノ教則本『スオミ・ピアノスクール』の価値　*209*

（２）『スオミ・ピアノスクール』に書かれているキーワードの分析　*210*

第２節　フィンランドにおけるピアノ教育者の育成について　*210*

（１）シベリウス音楽院におけるピアノ教育のカリキュラムについて　*211*

（２）エスポー音楽学校への訪問　*215*

第３節　シベリウス音楽院が果たすフィンランドのピアノ教育における役割　*219*

おわりに　*220*

北海道における芸能を中心とした無形の文化財に対する保護の現状と展望
……角　美弥子…*222*

はじめに　*222*

第１節　地方における文化財保護行政の概要　*222*

（１）沿革　*222*

（２）文化財保護条例　*223*

（３）文化財保護審議会と文化財保護指導委員　*224*

（４）教育行政の改革に伴う変化　*224*

第２節　北海道地域の無形の文化財と保護の実態　*225*

（１）無形の文化財とは　*225*

（２）北海道の民俗芸能調査　*227*

（３）北海道における無形の文化財の指定状況　*228*

（４）北海道地域の無形の文化財に対する保護の実際　*231*

第３節　無形の文化財の保護の在り方と可能性　*234*

おわりに　*236*

複合文化研究領域

実践報告：まちづくりと芸術・スポーツ文化イベント
— 北海道教育大学岩見沢校リージョナルセンターにおける
「あそびプロジェクト」— …… 福原　崇之・山本　理人・三橋　純予…*241*
はじめに　*241*
（1） まちづくりと芸術・スポーツ文化　*241*
（2） 求められる大学の役割　*242*
第1節 「あそびプロジェクト」の概要　*243*
（1）「あそびプロジェクト」実施の経緯　*243*
（2）「あそびプロジェクト」の目的と実施内容　*244*
（3） 来場者数　*245*
第2節　質問紙調査の結果　*248*
（1） 調査概要　*248*
（2）「あそびプロジェクト」の参加経験　*248*
（3） 同伴者　*249*
（4） 来場理由　*250*
（5） 本学に対するイメージ　*250*
（6） 自由記述　*251*
第3節 「あそび」と「ASOBI」の理念　*252*
（1）「あそび」ロゴについて　*252*
（2）「ASOBI」に込められたもう一つの意味　*253*
第4節　今後の展開について　*254*
（1） 新たなコンテンツ創出とマネジメント人材の育成　*254*
（2） 戦略的で柔軟な運営　*255*
（3） 社会包摂・社会福祉からのまちづくり　*255*
おわりに：「あそび」がもたらす「豊かな学び」　*256*

総合的な文化・スポーツ政策の現状および課題
— 北海道の総合的な文化・スポーツ行政の推進に関する方針を事例に —
…… 閔　鎭京・角　美弥子…259
はじめに　259
第１節　北海道における文化・スポーツ行政のあゆみ　259
（１）文化行政　259
（２）スポーツ行政　261
（３）一元化を巡る動き　262
第２節　総合的な文化・スポーツ行政の推進に関する方針の概要　263
（１）検討の背景　263
（２）方針提出前の文化・スポーツ行政　264
（３）総合的な文化・スポーツ行政の推進　265
第３節　総合的な文化・スポーツ行政の推進の現状　268
（１）組織　268
（２）事業　268
（３）北海道文化・スポーツ行政連携推進会議　269
（４）北の TOP プロジェクト　270
第４節　成果と課題　271
おわりに　272

芸術・スポーツビジネス研究領域

企業によるクラウド・ファンディングを通した新たな社会貢献
— アマゾンジャパンを例に —　……福原　崇之…277
はじめに　277
第１節　クラウド・ファンディングとは　277
（１）クラウド・ファンディング　277
（２）クラウド・ファンディングの類型　279
第２節　企業によるクラウド・ファンディング　284

（1） アマゾンジャパン　284
（2） WWF ジャパンとのコラボレーション　285
（3） アスリート応援プロジェクト　287
おわりに　288

日本におけるアーティスト・イン・レジデンスの成り立ちとその未来
―16 年間にわたる S-AIR の活動から―……　柴田　尚…292
はじめに　292
第 1 節　アーティスト・イン・レジデンスの歴史　293
（1） AIR とはなにか　293
（2） 日本における AIR の胎動　293
（3） S-AIR 誕生と北海道の AIR 史　294
第 2 節　アーティスト・イン・レジデンスは何をもたらすか　297
（1） AIR の目的と効果　297
（2） S-AIR 滞在作家等が魅せたいくつかの奇跡　298
第 3 節　日本における AIR の評価とこれからの未来　302
（1） 評価はどうあるべきか　302
（2） 成功の未来をどのように導くか　304
おわりに　305

5 つの主体から見るイベントの構造と特性　……高尾　広通…308
はじめに　308
第 1 節　イベントの 5 つの主体　309
（1） 主催者　309
（2） 参加者　310
（3） 来場者・支援者・制作者　311
第 2 節　イベントの 5 つの主体をめぐる考察　311
（1） 参加者という意識の広範性　311
（2） 参加者というネーミングの再考　312
（3） 新しい主体の発見　313
第 3 節　イベントの 5 つの主体と 6W2H　314

（1） イベントの6W2H　314
（2） 6W2Hから見るイベントの5つの主体　315
（3） イベントとプログラム　316
（4） イベントの5つの形式　317
（5） 制作と製作　318
第4節　イベントのパースペクティブ　320
（1） イベントの観客　320
（2） プロジェクトマネジメントとしてのイベント　322
（3） ISO20121　323
おわりに　325

オーケストラの指揮者選びとキャリア形成モデル
―ベルリン・フィルはなぜ「無名の」キリル・ペトレンコを
次期首席指揮者に選んだのか―　……宇田川　耕一…327
はじめに　327
第1節　ベルリン・フィル首席指揮者の「重み」　328
（1） ベルリン・フィル独自の民主的選考　328
（2） 歴代首席指揮者とその選考の過程　329
第2節　ベルリン・フィルとキャリア形成モデル　331
（1） 指揮者の4つの理念型と楽団員との関係性　331
（2） 指揮者と楽団員のキャリア形成モデル　332
（3） ベルリン・フィル最近4代の首席指揮者と理念型　334
第3節　なぜペトレンコを次期首席指揮者に選んだのか　336
（1） 有力候補者たちの「脱落」の要因　336
（2）「キャリア形成モデル」による先行事例の検証　337
（3） なぜペトレンコでなければならなかったのか　338
おわりに　341

あとがき……344

著者紹介……346